

第19回 OECC セミナー「日中環境協力の今後について」の報告

OECC 研修部会

第19回 OECC セミナー「日中環境協力の今後について」が、平成20年6月26日（木）13時30分より地球環境パートナーシップ・エポ会議室にて、50名余りの参加者を集めて行われた。相川研修部会長の開会挨拶に続き、講演①「中国環境の裏にあるもの」（名古屋大学大学院 教授 井村秀文氏）、講演②「最近の日中環境協力の動向」（環境省地球環境局環境協力室長 早水輝好氏）、講演③「中国におけるCDM」（（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構 参事 森谷 賢氏）の3講演が行われた。

講演①では、厳しい中国の環境問題の背景には、人口・国土・多民族面からの行政執行能力や極端な市場経済主義と高度経済成長、地域格差の拡大、地方政府の古い体質などが関連していることが説明された。また、環境問題を経済構造面から指摘され、省エネ技術の不足や世界の生産基地としての側面、さらに中国の特殊性を踏まえた日中環境協力のあり方が論じられた。続いて講演②では、中国の大気汚染と水質汚濁の推移、近年の黄砂問題の背景、酸性雨の我が国への寄与、これらに対

する日中韓三カ国、更には東アジアを含めた多面的な協力について説明がなされた。また、環境協力について、中国・東アジア・世界を見据えたコベネフィット重視の基本方針について論じられた。講演③では、クリーン開発メカニズム（CDM）の理念や実施方法、クレジット価格の動向とその背景、様々なCDMリスクについて説明がされ、中国におけるCDMの特徴と課題について具体的に論じられた。

続いてコーディネーターとして講演①の井村氏、パネリストとして講演②の早水氏、安楽岡頭氏（㈱数理計画技術顧問）ならびに森實順子 OECC 研究員を迎え、パネルディスカッションが行われた。我が国と関係の深い中国がセミナーの対象であったこともあり、会場を交え活発な議論が交わされた。片山 OECC 専務理事から閉会挨拶をもって閉幕となった。

（株）オオスミ 東京支店環境開発グループ
グループ長 平尾 実

「ODAにおける環境影響評価研修事業」について

（社）海外環境協力センター 研究員 堀内 綾

OECC では、1990年から国際協力機構（JICA）集団研修事業「環境影響評価コース」を受託し実施している。今年も5月から6月にかけて、14名の環境行政官を迎え「ODAにおける環境影響評価研修」を4週間実施した。過去18年間でアジア、アフリカ、中近東、中南米、大洋州、欧州73カ国から222名の参加者を受け入れてきたことになる。このような継続的な研修による技術協力は、世界でも稀だと言われる。

この18年で環境影響評価を取り巻く環境も様変わりした。1992年の国連環境開発会議（UNCED）を機に、世界的にも環境と社会に配慮した「持続可能な開発」の推進を目指す様々な取り組みが広がった。これらの活動を促進するための一つのツールとして、開発による環境や社会への影響を見極め、必要な行政措置を講じる「環境影響評価」の法制化が世界各地で着手されるようになった。途上国も例外ではなく、環境影響評価法や関連部署の設置等体制整備が進められてきたが、深刻化、

複雑化する環境問題に加え、技術的、人的、財政的資源等の制約により、効果的な環境影響評価、環境行政の推進が妨げられているという。このような状況をふまえて、本研修は、環境影響評価に係る講義や視察、演習を通じ、途上国の行政官が開発プロセスにおいて、環境と社会に配慮したより適切な審査、意思決定の能力向上を目標としている。

帰国した元研修員から「環境法改正に携わりスクリーニングとスコーピングを取入れた」、「住民向け環境影響評価研修を開いた」、「JICA 水質管理事業に関わった」等様々な便りが届く。

【謝辞】

本研修実施にあたりこれまでご指導いただいた各講師、各施設、JICA、（財）日本国際協力センター（JICE）、環境省ならびに OECC 会員の皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。